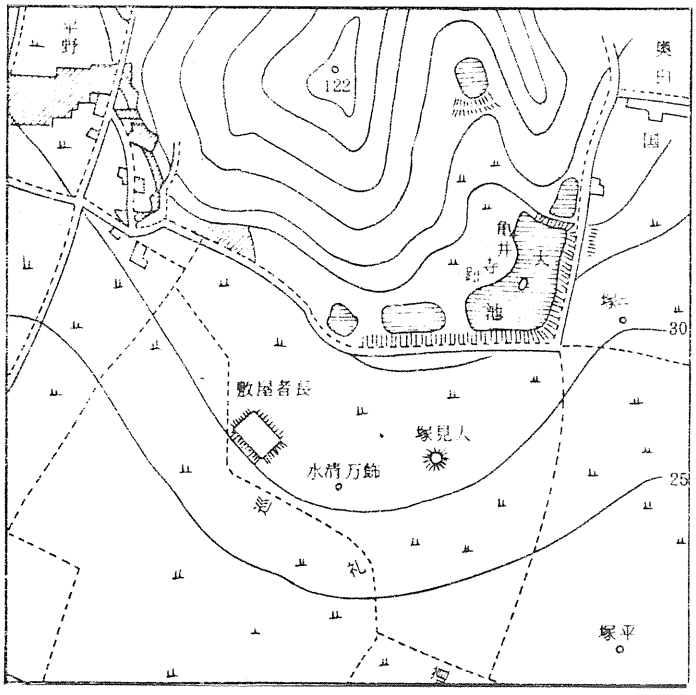
文化財見学シリーズ4

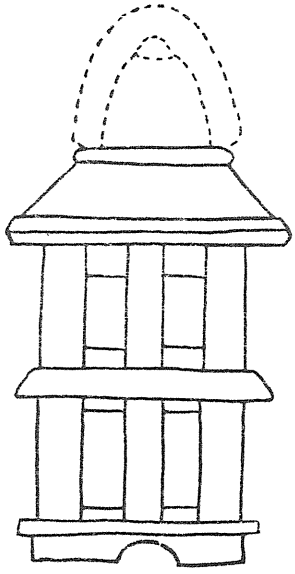
姫路市教育委員会（昭和54 3 月31日発行）
（平成3年1月　再版）

『巡礼道』をたずねて

巡礼道　巡礼道は開発の波に洗われて、昔の面影は急速に失われようとしている。巡礼道の道筋は、古老の話や道標のありかたなどから何本かあった地区もあるが早急な結論は現段階では出すことはできない。したがって、ここでは現在明確に残っているところを示し、空白の部分や点線の部分は今後の調査に待つことにしたい。しかしその主なルートは一乗寺を出て、加古川市志方町野深より姫路市飾東町大釜を経て、山崎・豊国・庄・佐良和を過ぎ花田町小川の北辺を西に天満神社の前より高木に入り、松ケ瀬の渡を越えて西中島・白国・北平野より大野峠を通り御立〈北山〉・〈横関〉を経て書写山々麓の書写〈東坂〉へ達している。〈東坂〉には井箇屋・大黒屋、飾東町庄には万屋（よろずや）・大黒屋、飾東町八重畑〈雉子端（きじはた）〉には合羽屋（かっぱや）・紅屋などの巡礼宿があった。



浅田芳朗著『人見塚の家』より



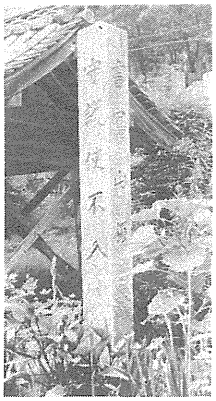
人見塚出土の家形埴輪

地図に記載されている長者屋敷や人見塚は明治29年、第10師団野砲兵第10連隊の兵営建設のため消滅してしまった。人見塚の東北に二塚（ふたつか）、南西に平塚とよばれるふたつの古墳がしるされ、ありし日の古代の遺構をうかがうことができる。

長者屋敷　往来する人々を人見塚の上から見て、宿泊をすすめ、夜半石を落して殺し、財物をはぎとり、その血で布を染め、これを飾磨のかち染といったという伝説がある。

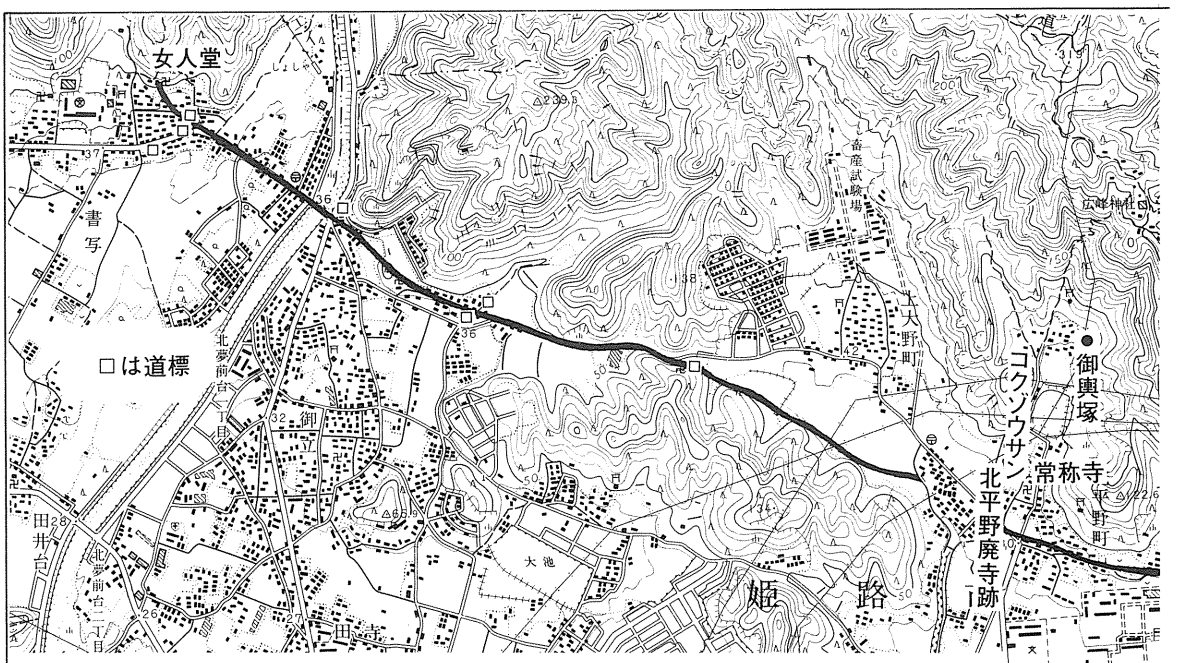
人見塚　円筒埴輪が二重にめぐらされた円墳。出土遺物は内行花文鏡（ないこうかもんきょう）・剣・勾玉（まがたま）・管玉（くだたま）・二階造りの家形埴輪（はにわ）・短甲（たんこう）の形象埴輪（けいぞうはにわ）。

巡礼宿　女人堂境内にあったが取はらわれて今はない。



守護使不入の石標

コクゾウサン境内に保管してある道標と北平野廃寺の礎石



御宿　女人堂境内にひそやかに建っていたが取払われて今はない。山麓にたどりついた人々が休養を求めた、ありし日の面影を写真によってしのぶことができる。

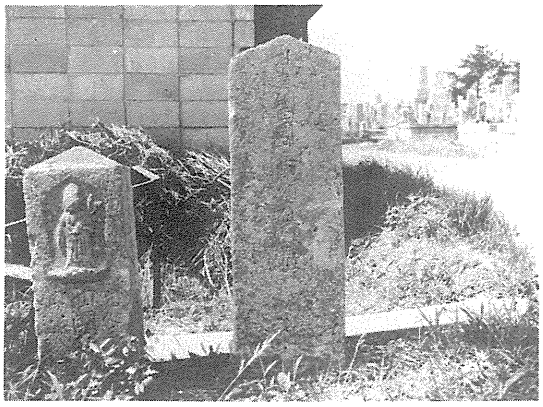
守護使不入の石標　高さ約3mの尖頭角柱型の石標。造立年代が刻まれていないが室町時代のものと考えられる。室町時代の守護は国内のすべての土地に立ち入って、強制執行をする権限や段銭をとりたてる権限をもっていたので、円教寺はこれに対抗するためにこの石標を建てたもので、円教寺の権勢を知る資料である。夢前川の東岸、御立村と東坂本村の境に立っていたが、のち西坂本村の石橋に用いられていたのを女人堂の境内に移したものである。

北平野廃寺　北平野町の西で、かつて塔心礎と数個の礎石が発掘された。常称寺境内に礎石と石棺が、西隣りのコクゾウサン境内に礎石と、巡礼道に立っていた道標が保管してある。また広嶺山からおろしてきたという室町時代の石仏がまつってある。

白国廃寺　弁天池の中に弁財天を祀る小祠があり、付近に布目瓦が散布している。出土した古瓦から奈良時代の寺院跡と考えられる。『峯相記』に白国山麓に山蔭中納言の建立した亀井寺があったことが記されている。

白国、弁天池下の道標と巡礼道（昭30）

白国の谷川のそばの道標



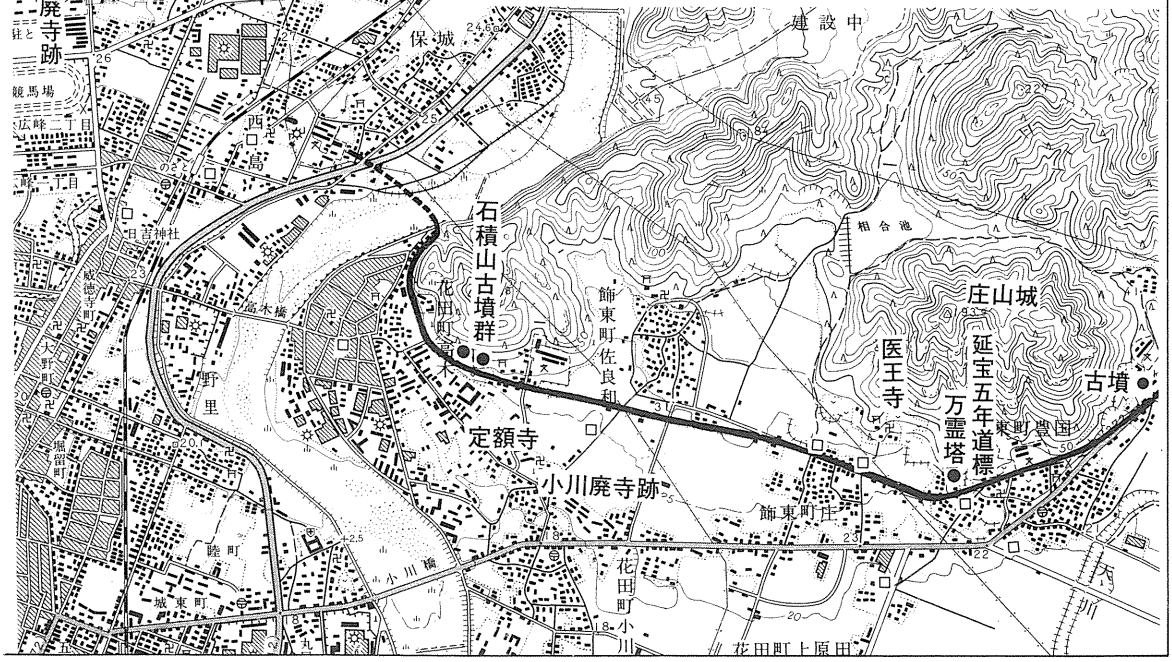
豊国の道標と巡礼道　右、延宝５年　左、文久３年

石積山古墳群　小川の天満神社の西、巡礼道の北側の石積山斜面に、巨石が各所に散在している。これは山腹から山麓に築造されていた古墳に使用された石材である。天満神社の西に横穴式石室が残っている。定額寺境内に、石積山古墳より出土したと伝えられている組合式石棺の底石が保管されている。

小川廃寺　花田町小川の金剛山定額寺のあたりにも奈良時代の寺があったといわれ、それを小川廃寺とよばれており、かつて奈良時代の鐙瓦が出土したことがある。定額寺の墓地に勤王志士列伝に収められている北村義貞の墓碑がある。

庄山城　1349（正平４・貞和５）年赤松貞範がこの城を築き姫路城より移った。のち御着城主小寺政隆は1529(享禄2)年御着城と庄山城を兼領するが翌年７月27日、浦上村宗に攻められ政隆は庄山城で討死した。元亀のころ（1570～1573年）別所孫右衛門重棟はこの城を修復して加東郡豊地城より移った。

豊国の道標　巡礼道を歩いていると四つ辻などで古びた道標を目にすることが多い。豊国には全国的に見てもかなり古い1677(延宝5)年の道標がある。これは西国霊場の巡礼をなしとげたという記念碑でもある。姫路市指定文化財。



医王寺の石仏

八王子神社の表門

春日野１号墳

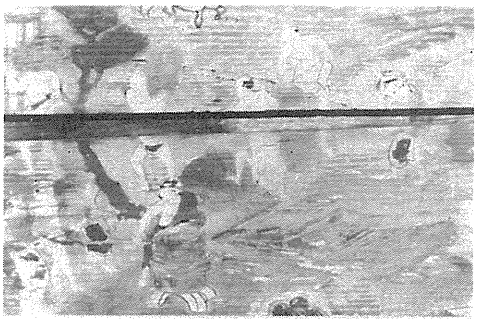
春日野古墳群　豊国から春日野の山すそには、かつて多数の古墳があったが、その多くは消滅した。今も残る春日野１号墳の横穴式石室は、玄室の間口が奥行よりも長大である石室構造に特色がある。

八王子神社表門　明治維新のとき、姫路城の櫓・門・土塀などがとりつぶされた際に、城門の一つが八王子神社に移され、転用されたものである。

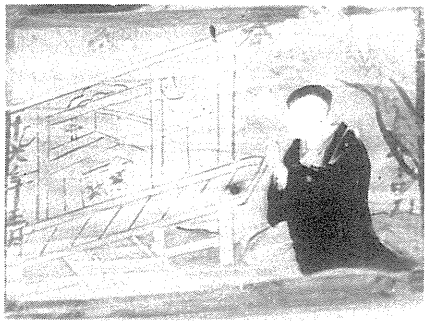
苔の清水　播磨十水の一つとして古くから有名で、今でもなお清浄な水がこんこんとわきでている。

苔の地蔵　苔の清水の傍の小堂内に安置されている。乳が出ない婦人が祈ると霊験があると伝えられている。

雉子端の廻国塔　山すそに「大乗妙典日本廻国供養塔」「嘉永元年」と刻まれた廻国塔が建っている。昔、わが国は六十六カ国に分かれていたため、法華経の経典を六十六カ国の霊場に保管する目的で国々を廻ったこと、廻っていることを銘文にした塔を廻国塔という。

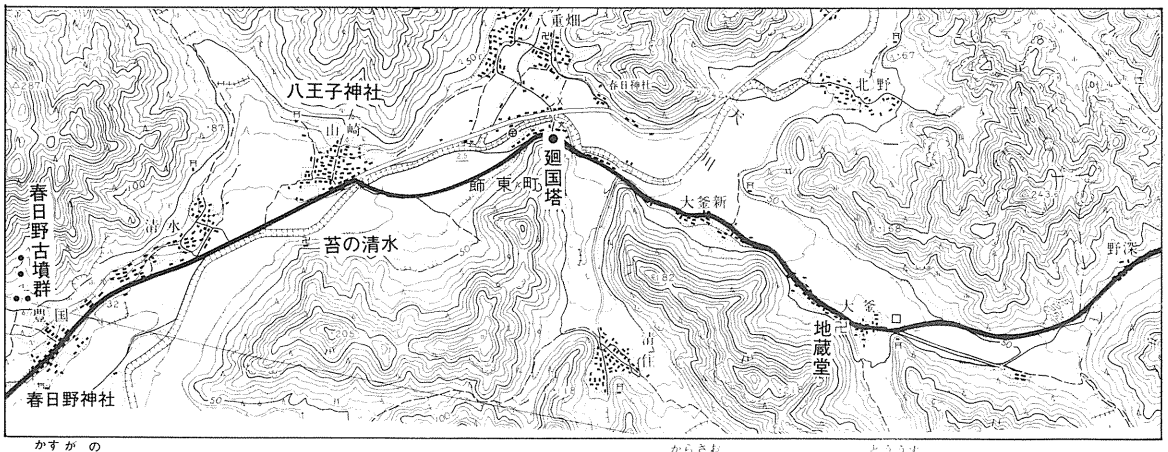


春日野神社の絵馬(部分図)



大釜地蔵堂の小絵馬

廻国塔



春日野神社の絵馬　苗取り・苗運び・田植え・千歯こきや唐棹（からさお）による脱穀・唐臼（とうすい）による籾すり・米の計量・俵づめ・倉庫に搬入・すきとまぐわによる耕耘（こううん）を配した一年間の農業の仕事を収めたもので幕末時代の農耕技術をうかがうことができる好資料である。

大釜地蔵堂の小絵馬　奉納者自身がささやかな板片に絵筆をふるって願いや祈りをこめて奉納した礼拝の姿を描いた拝み絵馬が掲げられている。

■編集　増田重信（姫路市書写台３―57）